

平成20年度決算は、9月11日に決算特別委員会（議長と監査委員を除く12名）を開会し、11会計を審査しました。審査に先立ち、町長は新聞などで報道された自身の行為について公職選挙法の認識が不足していたとして陳謝しました。

9月18日の本会議で、反対・賛成討論の後、採決の結果、賛成多数で認定しました。



青木彰榮 委員長



獅子舞（あゆーむ 多目的交流広場）

平成20年度各会計決算額表			
会計項目	歳入（町の収入）	歳出（町の支出）	
一般会計	78億3,917万円	74億5,578万円	
特別会計	十王財産区	115万円 / 22万円	
	下水道	11億2,364万円	11億 947万円
	国民健康保険	16億1,015万円	15億1,856万円
	老人保健	1億6,376万円	1億7,788万円
	農業集落排水	8,250万円	8,119万円
	介護保険	13億4,928万円	13億 893万円
	後期高齢者医療	1億2,937万円	1億2,723万円
企業会計	水道	収益的収支	3億2,795万円 / 2億8,144万円
		資本的収支	3,751万円 / 2億3,846万円
	病院	収益的収支	11億8,073万円 / 11億7,775万円
		資本的収支	1,262万円 / 8,377万円
	訪問看護	収益的収支	3,341万円 / 3,995万円
合計	138億9,129万円	136億 63万円	

※万円未満は端数を整理しています。

賛成

討論

反対

賛成討論

守谷丹吾 議員

平成20年度は、「自立しながら成長できる町を創るため、人づくりを基本に、町民と協働によりすすめる」として始まりました。

事業では、町営バスに変わるデマンドタクシーの運行や農業の軸となる「地域農業活性化センター」の設置、プレミアム商品券の発行、荒砥高等学校新入生応援事業、民設民営の全町光ファイバー通信網整備などを評価します。

財政状況では、町税は経済不況の影響で減少ですが、国の経済対策による臨時交付金などがあり、実質収支は黒字になりました。

また、公債費比率も前年度より1.8%改善し、地方債残高も前年度と比べ約5億5千万円減少し約89億円になったことを評価します。

今後も行財政改革をすすめながら、町民が安心して生活できる町政の執行を求め賛成討論とします。

賛成議員（11人）
五十嵐政司議員
菅 祐二議員
岡田 明議員
青木彰榮議員
加藤秀人議員
今野正明議員
遠藤幸一議員
守谷丹吾議員
関千鶴子議員
菅原隆男議員
佐藤京一議員

反対討論

佐竹典明 議員

地区公民館の現体制では、地域の方と職員の交流が十分にできないという声が出がっています。

大規模林道の後年度負担金は、計上すべきではありません。

町が、環境対策費として1100万円以上税金を投入している田中豚舎の汚水・悪臭は、何年たっても改善がはかられません。町に確約書を守らせる手立てがあるのか疑わしいです。

「あゆーむ」の建設は、公

共施設が空いてくることか明らかなかで、「新たな箱物はいらぬ」という多数の町民の声を聞いたのか疑問です。

鮎貝土地区画整理組合の保留地分譲には、町として販売促進の援助や助言を行い、有効な手立てをとることが必要です。

納税義務のない一般会計の各種手数料や使用料などへ、消費税を転嫁することは止めるべきです。

反対議員（2人）
本木勝利議員
佐竹典明議員